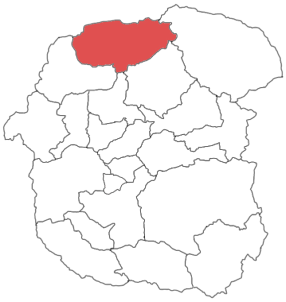
8区 | 佐　須 行政区

地理



佐須行政区は飯舘村の北端に位置する行政区である。村の中心部とは異なり、起伏に富んだ地形が特徴で、家々は東西に約6～7kmにわたって細長く点在している。北へ向かうと、伊達市霊山へとつながる地域であり、現在は福島市と南相馬市を結ぶ相馬福島道路が近くを通り、村の北の玄関口としての側面も持つ。

文化・生活

歴史的には、佐須は村内で先進的な側面を持つ地域であった。その一例として、村内で最も早く水力発電による電気が導入された点が挙げられる。発電所の管理は地元住民が行い未来への希望をいち早く灯した。その跡地は今も残っている。

明治9年に開校した佐須小学校は100年の歴史を刻み、昭和52年に閉校した。閉校後も校舎は地域コミニティの中心的な役割を担っていたが、老朽化が進み解体された。歴史的背景があるこの場所は今でも地域の集いの場として活用されている。

佐須の主な産業は、農業と林業であった。狭隘な地域のため大規模経営はできず、多くの世帯は稲作に畜産、野菜、たばこなどを組み合わせた複合経営主体の小規模な兼業農家の暮らしであった。

菅野宗夫　行政区長

震災前までは､集落営農や畜産を行う専業農家であった。震災後は、生きがいのある自立の道を求め、スマート農業に積極的に取組む。また、後に NPO 法人 ふくしま再生の会理事長となる田尾陽一氏との出会いを契機として、同会の副理事長となり、被災地の生業と生活再生のための活動をしている。

行政区長の思い：

先人の方々に感謝しつつ、次の世代にどう繋ぐかを念頭に地域づくりに専念したい。原発事故による地域住民の分散はコミュニティの崩壊に直結した。心に豊かさのある暮らしやすい地域コミニティの再構築に向けて､進めなければと考えている。

未来への架け橋を、皆さんと。

昔は、冷害をもたらすやませの影響を受けていたため、暮らしは不安定だった。経営の安定化と土づくりを図るため、多くの農家で家畜の飼育が盛んに行われてきた。

また、林業は生活と不可分な存在であった。地域集落の周りにある国有林は、慣行特売という形で伐採木が払い下げられ、炭焼きなどをして収入を得てきた。特売がもたらした地域住民による山林の管理と伐採は、森の恵みの循環と治山治水に貢献してきたともいえる。また、部分林組合を結成し、国有林を借り受けて植林・管理を行い、数十年後に売上の一部を受け取るという、世代を超えた森林経営も実践されていた。しかし、国のエネルギー政策の転換により炭焼きは衰退し、農業の機械化が進むと、高価な機械の購入資金を得るために冬季の出稼ぎが増加した。次第に兼業化が進展し、震災前には多くの住民が村内外へ通勤する生活形態となっていた。

現在、佐須では新たな動きも見られる。飯舘村が県内初のどぶろく特区の認定を受け、どぶろく醸造所を兼ねるレストランが営業している。また、地域の将来を見据え、ICT 技術を導入して遠隔地からの営農も可能にする圃場整備事業も地域ぐるみで進行中である。これは、次世代に繋ぐ環境づくりであり、知恵を出し合って進めている。

地域の文化や風土は、ここにしかない貴重な財産と捉えられる。行政区内には全国から参拝者が訪れる山津見神社が位置する。山の神を祀るこの神社と地域は一体の関係にある。年の初めに住民による村祈祷がある。山津見神社に集い地域全体の安全と繁栄を祈願する。参拝後に集会所で年始会を開くこの慣例行事は、佐須の住民の連帯感を示していると言える。また、原発事故前まで開催された佐須農業祭は 21 回を数え、地域の交流文化を象徴するイベントであった。住民が育てた農産物や手作りの品々を持ち寄り、都市部からの来訪者が審査員となって評価審査をするというユニークな生産者と消費者の直接的な交流の場となっていた。

佐須は外部の人達を積極的に受け入れ交流してきた歴史を持ち、大学のゼミや劇団の合宿などが行われていた｡これらの伝統は現在､農業体験宿泊施設「風と土の家」を利用しての交流に進み、地域活性化拡大を目指す取り組みへと繋がっていく。

店

事業所

震災前は雑貨屋が１軒あった。

また、震災前から現在にかけて「気まぐれ茶屋ちえこ」が飲食店として営業しながら、どぶろくの製造・販売などを行っている。

震災後は、ふくしま再生の会事務所が置かれ、体験宿泊施設 風と土の家が置かれている。

▲ 宿泊体験施設 風と土の家

人　口

56 人
最新（2020 年）

1983 年　343 人
1998 年　273 人
2011 年　250 人

▲ 佐須公民館

コラム

【虎捕山 山津見神社】

佐須行政区の虎捕山に鎮座する山津見神社はオオカミ信仰で知られる古社である。白い狼に関する伝説があり、火難除けや厄除けの神として崇敬されている。拝殿には 240 枚以上のオオカミの天井絵が描かれていたが、2013 年の火災により社殿と共に焼失した。その後東京藝術大学などの協力によって絵が復元され、現在は再建された社殿でその姿を見ることができる。例大祭は震災後も祈祷のみ行われていたが、2025 年 12 月に震災前と同規模で初めて行われ、茅葺茶屋も復活し、活気を見せていた。

▲ 気まぐれ茶屋ちえこ

▲ 山津見神社例大祭（2025 年 12 月）

▲ 山津見神社本殿の前より南方を望む

▲ 虎捕山 山津見神社